

平成25年度 武漢市学校交流事業 派遣期間中の活動報告

平成26年3月23日(日)～30日(日)

◎1日目〔3月23日(日)〕

【武漢市へ出発】

別府北浜バス停より高速バスにて福岡空港へ。福岡空港では飛行機の到着遅れがあり、時間が下がったが武漢市の方と連絡をとって確認した。福岡空港から上海空港で国内線へ乗り換えをしなければならず、言葉も分からないので不安もあったが空港職員の誘導で無事に行くことができた。上海空港から武漢空港に到着したのは夕方であった。空港に到着するとホームステイの生徒の家族や武漢市の学校の先生方が出迎えに来てくれていた。熱烈な歓迎を受けて、終日移動で疲れていた生徒たちも元気を取り戻していた。生徒たちはそのまま各家庭に入り宿泊、引率教員はホテルに宿泊した。



◎2日目〔3月24日(月)〕

【武漢実験外国語学校での学校生活スタート】

生徒はホームステイ先から登校する。月曜の朝は全校集会があり、国旗の掲揚等を行う中に参加した。生徒たちの所属クラスは2年5組。クラスは日本語、フランス語、ドイツ語などを学ぶ生徒が混在しており、外国語の授業の時は別々に授業を受けることになっている。クラスでは最初に日本の生徒を迎える歓迎会が行われた。日本語クラスの生徒が進行と通訳をしていた。日本の生徒、引率教師が自己紹介した後日本語クラスの生徒が日本語で自己紹介をした。教室の黒板の中にテレビ画面が設置されていて、生徒はその画面でパワーポイントを使って自分の趣味等の話をしていた。



2時間目は日本語クラスの一年生の生徒と一緒に漢詩の授業を受けた。黄鶴楼という武漢でも有名な歴史建造物と関わりのある李白の詩についての勉強をした。授業は途中通訳をしながら中国語で進められた。生徒が中国の衣装を着て詩の場面を演技して内容を分かりやすく説明するなど日本の生徒に配慮した授業であった。この日の午後に実際に黄鶴楼に行くことになっていたの、事前に学習ができてよかった。



3時間目は武漢市の生徒たちによる手品の披露を見た後、中国の伝統的な結び方の体験学習を行った。武漢市の先生が丁寧に大分市の生徒に教えている様子が印象的だった。

その後、校長先生や副校長先生等、学校代表者を交えた歓迎式が昼食を兼ねて行われた。

【校外見学～黄鶴楼～】

午後からは、大分市の生徒たちと武漢市の生徒たちが数名一緒に黄鶴楼の見学に行った。実際の建物や展示物を見たことによって武漢の歴史や文化を感じることができたようであった。

学校へ帰着後、生徒は各家庭に戻り食事をしたり、買い物に連れて行ってもらったりしていた。



◎ 3日目 [3月25日 (火)]

【学校生活2日目】

1、2時間目は日本語クラスの2年生と交流会を行った。武漢市の学校で日本語を教えている宮崎先生が担当して、ジェスチャーゲームや伝言ゲームを行ってお互いの交流を図った。生徒たちも楽しんでゲームを行いながらコミュニケーションを交わしていた。お互いの距離も近くなったように感じられた。

【校外見学～東湖、歴史博物館～】

その後、武漢市の生徒たち数名と共に東湖に出かけた。スピードボートに乗って楽しんだり、昼食で本場の中国の料理を食べながら生徒たちは交流を深めていた。また、歴史博物館にも見学に行った。武漢市の生徒が展示物の解説をしてくれながら館内を見学して回った。学校のバスで移動する中で武漢の街並みもたくさん見ることができた。武漢市は現在大規模な都市開発が進められており、たくさん的高層ビルが建設されていた。

学校へ帰着後、生徒は各家庭に戻りホームステイ先の家族との時間を楽しんでいた。ホームステイ先の家族の方はとてもやさしく親切に生徒と接してくれていた。生徒のためにたくさん食事を用意してくれたり、いろんな場所に連れて行ってくれたりしていた。うまくコミュニケーションをとれない面もあったようだが、気持ちで通じあいながら感謝の気持ちをもって生活していた。



◎ 4 日目 [3 月 2 6 日 (水)]

【学校生活 3 日目】

1、2 時間目は中国の書道の授業を受けた。外部から招かれた講師の方に、書体や筆の持ち方などを教わるとともに講師が持っている中国独特の印鑑なども見せてもらった。その後実際に書道を体験して自分たちが書いた作品を記念品として頂いた。

3 時間目は音楽の授業を受けた。はじめに武漢市の先生や生徒たちが演奏を披露するのを見せてもらった。その後、中国の有名な「茉莉花」という歌を紹介してもらい、生徒たちから教わって共に歌った。授業のお礼に大分市の生徒から碩田中学校の校歌を披露したところ、武漢市の生徒たちも学校の校歌を歌ってくれて、音楽を通じた交流ができた。

【校外見学、表敬訪問】

昼食後は、武漢市の生徒たち数名と一緒に武漢の繁華街に出かけて街並みを見学した後、外事弁公室へ向かい表敬訪問をした。所長さんからの話を聞きながら大分市と武漢市の交流の意義について生徒たちも改めて考えることができたようであった。

【学生寮へ宿泊】

武漢実験外国語学校の生徒は寮生活をしており、週末だけ自宅に帰ることになっている。そのため夜の学校でも教室が開放されて自習や授業が行われている。この日は学校の食堂で夕食を取った後、1 年生との交流会を行った。宮崎先生の指導のもとでゲームを中心にした授業が行われた。その後、生徒たちは学生寮に入って宿泊をした。大分市の生徒にとっては初めての体験で部屋の仲間と話したり、ゲームをしたりしながら盛り上がった雰囲気の中で楽しい時間を過ごしていた。



◎ 5 日目 [3 月 2 7 日 (木)]

【学校生活 4 日目】

1、2 時間目は日本語クラスの 3 年生の生徒と交流会を行った。昨年碩田中学校に交流に来ていた生徒たちのクラスということもあって、和やかな雰囲気でお互いに楽しくゲームをしていた。大分市に来ていた武漢市の生徒は今回の訪問を非常に楽しみにしてくれていて、最初に学校を訪れたときから日本の生徒たちとの再



会を喜んでいて、休み時間があれば会いに来るほど、大分市の生徒たちとたくさん話をしたがっていた。彼らに向けて作ったビデオレターを渡すと非常に喜んでくれて、彼らからも大分市の生徒に向けてのビデオレターを撮影してお返しをすることにもなった。

3時間目は、中国の民族衣装を試着体験させてもらった。着付の先生に着せてもらって大分市の生徒たちも照れながら記念撮影をしていた。武漢市の生徒たちや校長先生も試着しており、中国でも珍しい体験をさせてもらったことを実感した。

4時間目は太極拳の体験学習が行われた。太極拳をするための衣装に着替えて武漢市の生徒と一緒に教えてもらった。武漢市の生徒たちにとっても太極拳はあまり体験したことのないものだったようで、先生が一つ一つの動きを実演しながら丁寧に教えていた。

【校外見学～帰元禅寺～】

昼食後は武漢市の生徒数名と帰元禅寺を見学に行った。たくさんの仏像があり、それらにちなんだおみくじに似たことを行った。天気もよく、暑さを感じる中での見学であったが、軽食を食べながら、武漢市の生徒と大分市の生徒でいろいろな話をする時間もあり、よい交流活動になっていた。

学校へ帰着後は、生徒は各家庭に帰って家族との交流を行った。



◎6日目〔3月28日(金)〕

【学校生活5日目～最終日～】

1時間目の授業は2年5組で物理の授業を受けた。「浮力」についての学習で、大分市の生徒は理科の授業で教わったことのある内容だったが、中国の方がより詳しく学習を行っていたので難しく感じていたようだった。先生は前の画面を使ったり、演示実験をしたりしながら教えていた。

2時間目は中国の京劇についての学習が行われた。外部から招かれた講師から、京劇の歴史や内容について説明を聞いた。劇で使う道具も見せてもらった。

3時間目は中国の民族舞踊についての体験学習を行った。実際の衣装を着て、武漢市の生徒と一緒に先生から踊りを教えてもらった。動きを覚えるのに苦労しながらも大分市の生徒も武漢市の



生徒も楽しみながら踊っていた。最後は覚えた一曲を先生たちの前で披露できるまでになっていた。

この日が武漢市の学校に通う最終日ということで、午後からは送別会があった。校長先生を始め、先生方や担当クラス・日本語クラスの生徒、ホームステイ先の家族の方々など今回の事業に関わった多くの方が参加しての送別会となった。大分市の生徒も感想を発表し、今回の活動が非常に有意義なものであったことや関わってくださった方々への感謝の言葉を伝えていた。

【各家庭でのホームパーティー】

学校の先生方との別れを終えた大分市の生徒たちは、ホームステイ先の家庭にてホームパーティーを行った。日本語クラスの生徒たちも招かれて、みんなで餃子を作り、それを食べながら楽しい時間を過ごしていた。中国ではこうしたパーティーがよく行われるらしく生徒たちも上手に餃子を作っていた。できたての餃子をおいしく食べながら会話も弾んでいた。



◎7日目〔3月29日(土)〕

【各家庭との最後の時間】

この日はホームステイ先の家族ごとに終日行動。花を見に行ったり、買い物に出かけたりしていた。夕方ホテルに集合して家族ともお別れの時を迎えたが、別れを惜しんだり、感謝の気持ちを伝えたりしながら涙を流す大分市の生徒の姿に、この研修が実りあるものであったことを感じさせられた。

◎8日目〔3月30日(日)〕

【日本への帰着】

朝早くに空港に向かい、そこから来た行程を戻るようにして日本へと向かった。夕方無事に到着した。自分たちの家族の顔を見て生徒たちも安心したようであった。

一週間の時間が大変短く感じられるほどたくさんの体験をすることができて、生徒たちにとっては一生忘れられないような貴重な経験や思い出ができたと思う。

武漢市側の生徒の受け入れも含めて、この武漢市との交流事業の意義深さについて体験を通して実感することができた。